# 三木剣連60周年記念式典・指導者講習会

## 福本修二全剣連副会長　剣道の魅力を熱く語る

去る9月1日（日）、午後12時30分から、吉川総合公園文化体育館で、「三木市剣道連盟創立60周年記念式典並びに剣道指導者講習会」が、来賓に三木市教育長松本明紀氏、兵庫県剣道連盟東播地区協議会会長平野武彦氏、兵庫県剣道連盟専務理事池田公律氏をお招きし、会員及び市内高校生約80名と東播各市、神戸市、宍粟市等より参加した剣道愛好家ら約50名、計130名余が参加して盛大に開催された。

記念式典は、来賓祝辞に続いて高橋洋三会長が、三木市剣道連盟の60年の歴史を振り返り、今後の目指すべき道は、会員のさらなる結束と「武士道」の精神の修養であると力強く語った。

記念講演では、全日本剣道連盟副会長剣道範士8段 福本修二氏が講演。剣道の理念、目的、剣道を修養することの意義を解説。子どもも大人も剣道の修練が日常生活に役立ち、心を豊かにすると熱く語られた。

記念講演で講演する福本修二全剣連副会長

15時から参加者全員で記念撮影が行われた。続いて合同稽古に先だって福本範士から剣道の基本についての実技指導が行われ、参加者にとってはまたとない機会となった。その後約1時間、参加者は鋭い気合を発して互いに剣を交え、充実した稽古に心地良い汗を流した。

実技指導で刀の握りを指導

この日、60周年記念事業として作成した当連盟発行広報の集成DVDも参加者に配られた。

# 会長挨拶（抜粋）

我が連盟は、昭和28年結成以来、60周年の節目を迎えました。

元来、我が三木市は剣道を修める者にとって、土地に例えるなら、「やせ地」と言わざるを得ません。遠く戦国の時代に、東播8郡を治めた別所長治という英傑がいましたが、22か月の篭城の末織田軍に屈し、播州侍は散り散りになりました。以来、三木の地には侍文化を伝えるはずの侍がいなくなりました。明治になって剣道再建の中心となった男子系の中等学校も三木には作られませんでした。伝統文化である剣道を育てる土壌が、町人の街三木にはなかったことは、現在、東播地区の他市にはあたりまえにある中学校の武道館が三木市内の中学校には一つもないという極端な現状に表れています。

稽古場所もなく、専門の教育を受けた指導者もいないまま、先輩たちは、同好の士相集まり、今日に至る道筋をつけてくれました。他市に比べて条件の悪い当市の剣道を何とかここまで導いてくださったのは、たとえば、藤原淳作先生のような学校教員の先生方、警察官として本格的な剣道を修業した、故安栖敏夫先生のような警察官、吉川の地に剣道を残しながら亡くなられた手島昇先生、そのほか多くの同好の士が、いずれも身を犠牲にしながら、粘り強く皆を励まし、世話をし続けた方々のおかげであります。

おかげで、今日我が三木市剣道連盟は東播の他市に伍して、少年団体は8団体、2つの中学校剣道部、市内4高校には、それぞれ剣道を修めた顧問がついた剣道部があります。一般会員の昇段も順調で、現在成人会員中、7段14名、6段13名と高段者を抱え、県剣道優勝大会一般の部に連続上位に食い込むなど、成人の試合にも積極的に出場するようになっています。また、若者たちもそれに続けと、若いリーダーが育ちつつあります。会員は少数ながら連盟の組織の一員として諸行事など責任感をもってこなし、一枚岩の団結を誇示しています。

少年剣道教室に入ってくる子供が少なくなり、大人の会員も平均年齢が徐々に上がってきました。これから我々は「生涯剣道」の合言葉を、どう実践すればいいのでしょう。命尽きるまで、ブレることなく、剣道を貫いていくにはどんな覚悟がいるでしょう。少年に剣道を教え、伝統文化の剣道を伝えることを通じて、どんな人間に育ってほしいか、我々指導者に意見の一致はあるでしょうか。

剣道を修業することで、まさかの時にうろたえることなく、沈着冷静で、時には危険を顧みず、勇気をもってことにあたり、弱きを助け、心くじけた人を励まし、優しく包む心の練れた人間になることが出来ているか。それはまさに現代において私たちが武士たちが理想とした「武士道」を体得する修業と相通じるものであると思うわけですが、それが日々の稽古や生活を通じて身についているのかどうか。60周年を節目に一度じっくり考えてみてください。

（報告　澤田　薫）

## 連　絡

福本範士の当日の講演、実技指導を録画したＤＶＤをご覧になりたい方は、事務局までご連絡ください。

また、会員の皆様には、広報集成ＤＶＤをもれなくお渡しします。

## 月々の便り　丹野骨平

**祭月余情**

祭り囃子が通り過ぐ
全畦満開　曼殊沙華

祭り囃子が通り過ぐ
童が真似る　伊勢音頭

祭り囃子が通り過ぐ
あの娘に見しょとて　担ぐ輿

祭り囃子が通り過ぐ
長屋の軒を　うまく避け

祭り囃子が通りすぐ
茶碗酒酌む　十三夜

**重陽月嘆息**

暑さの去らぬ　菊の月
姿整へ　鮎に塩

暑さの去らぬ　菊の月
叔父の忘れし　夏帽子

暑さの去らぬ　菊の月
家出娘の　色草履

暑さの去らぬ　菊の月
和布を拾ふ　津波孤児

暑さの去らぬ　菊の月
供花も少なき　孤老の喪